

心身の機能の発達と心の健康

本単元で育成する資質・能力

主体性、知識・情報活用能力、高い志

1 単元について

(1) 生徒観

(2) 単元観

本単元は、学習指導要領の保健分野 2 内容 (2) のア「心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。」と、イ「心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。」を受けて設定した。

小学校では、体の発育・発達の一般的な現象や個人差、思春期の体つきの変化や初経、精通などを学習している。また、心も体と同様に発達し、心と体には密接な関係があること、不安や悩みへの対処などを学習している。

本単元では、健康の保持増進を図るための基礎として、心身の機能は生活経験などの影響を受けながら年齢とともに発達することについて理解できるようにする。また、心の健康を保持増進する方法についても理解できるようにするとともに、ストレスへの対処ができるようにする必要がある。さらに、心身の機能の発達と心の健康に関する課題を発見し、その解決に向けて思考・判断し、それらを表現することができるようにすることが必要である。

(3) 指導観

学習指導要領では、単に知識を理解するに留まるのではなく、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うことが提示されている。したがって、心身の機能の発達と心の健康に関わる知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に取り入れることにより、思考力や判断力を育成できるように指導することが大切である。

本単元では、思春期における心身の発育・発達の仕組みについて正しい知識を習得させるとともに、それを自己の生活につなげ、自他の健康・安全を確保していこうとする実践的な態度を育てたい。

また、話し合い活動を多く設定し、自分の意見を伝えたり仲間の意見を聞いたりしながら、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較できるような機会を増やすことで、健康や安全についての思考力や判断力を育てたい。そのために、話し合いの視点が明確になるような資料やデータを提供し、意見交換が活発になる工夫をしていきたい。

さらには、様々な場面において、学習内容を自分自身に置き換えて考えさせることによって、学びを今後の自己の生き方につなげさせていきたいと考える。

2 人権教育の視点

本単元では、心身の機能の発達と心の健康について学習する中で、個別の人権課題の一つである「子ども」に関連する内容を取り扱う。具体的には、思春期における心の発達について、発達の仕方や時期、程度には個人差があることを理解することで、他者との違いを受けとめ、いじめのない集団づくりにつなげることができると考えた。

「人権教育を通じて育てたい資質・能力」（3つの側面）を次のように設定した。

知 識 的 側 面	思春期には心の発達とともに自己の認識が深まり、自己形成がなされていくが、その仕方、時期、程度には個人差があり、それを理解することが自他の人権尊重につながる。
価値的・態度的側面	心の成長や自己形成に関わる知識を踏まえ、自他の価値を尊重しようとする態度。
技 能 的 側 面	心の成長や自己形成に関わる知識をもとにして、互いの相違を認め、受容できる技能。

3 単元の目標

心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。

- 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。
- 思春期には、内分泌の働きによって生殖にかかわる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
- 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。
- 精神と身体は、相互に影響を与え、かかわっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。

4 単元の評価規準

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
①心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。	①身体機能の発達について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。
②心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	②心身の機能の発達と心の健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	②生殖にかかわる機能の成熟について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。
		③精神機能の発達と自己形成について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。
		④欲求やストレスの対処と心の健康について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。

5 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

※ 別紙「授業研究のための見とりの観点シート」を参照。

6 指導と評価の計画（全 10 時間 本時は 6 / 10）

次	時	学 習 内 容	評 価	
			評 価 規 準・【評価方法】	資質・能力の 評価
1	1	<u>課題発見</u> ○体の発育・発達	○体の発育・発達について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 (ア①)【ノート, 発言の様子】 ○体の発育・発達について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。 (ウ①)【ノート, 発言の様子】	○主体性
	1	<u>情報収集</u> ○呼吸器・循環器の発育・発達	○呼吸器・循環器の発育・発達について、資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見つけ、それらを説明している。 (イ①)【ノート, 発言の様子】 ○呼吸器・循環器の発育・発達について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。 (ウ①)【ノート, 発言の様子】	○知識・情報 活用能力
	2	<u>情報収集</u> ○生殖機能の成熟	○生殖にかかわる機能の成熟について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。 (ウ②)【ノート, 発言の様子】	○知識・情報 活用能力
	1	<u>整理・分析</u> <u>まとめ・創造・表現</u> ○異性の尊重と性情報への対処	○異性の尊重と性情報への対処について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 (ア②)【発言の様子】 ○異性の尊重と性情報への対処について、学習したことと自分たちの生活や事例などの関係を見つけ、筋道を立ててそれらを説明している。 (イ②)【ノート, 発言の様子】	○主体性 ○知識・情報 活用能力
2	2	<u>情報収集</u> <u>整理・分析</u> ○知的機能, 情意機能, 社会性の発達 ○自己形成 (本時)	○知的機能, 情意機能, 社会性などの精神機能の発達について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 (ウ③)【ワークシート, 発言の様子】 ○自己形成について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 (ウ③)【ワークシート, 発言の様子】 ○精神機能の発達や自己形成について、学習したことを自分たちの生活と比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 (イ②)【ワークシート, 発言の様子】	○主体性 ○知識・情報 活用能力

3	1	<u>情報収集</u> <u>整理・分析</u> ○心と体の関わり	○心と体の関わりについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(ア②)【ノート、発言の様子】 ○心と体の関わりについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。(ウ④)【ノート、発言の様子】	○主体性
	1	<u>情報収集</u> <u>整理・分析</u> ○欲求と欲求不満	○欲求と欲求不満について、健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。(イ②)【ノート、発言の様子】 ○欲求と欲求不満について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。(ウ④)【ノート、発言の様子】	○知識・情報活用能力 ○高い志
	1	<u>まとめ・創造・表現</u> <u>振り返り</u> ○ストレスへの対処と心の健康	○ストレスへの対処と心の健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。(イ②)【ノート、発言の様子】 ○ストレスへの対処と心の健康について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。(ウ④)【ノート、発言の様子】	○知識・情報活用能力

学校名： 安芸太田町立安芸太田中学校 授業者： 清水 裕之

教材作成者： 清水 裕之

授業日時	令和元年	教科・科目	保健体育科
学年・年次	第1学年	生徒数	
单元名	心身の機能の発達と心の健康	本時／この内容を扱う全時数	6／10
教科書及び教科書会社	新編 新しい保健体育（東京書籍）		

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）

知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること、また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされることを理解することができる。

メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）

思春期に心（知的機能、情意機能、社会性）が発達することで、私たちはどのような考えをもったり行動をしたりするようになるだろう。

児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）

「知的機能」「情意機能」「社会性」という語句を目にすること自体が初めてなので、どのように答えたらよいかわからない、という生徒がほとんどであると考えられる。また、これまでの学習や経験をもとに、「美しくなりたいと考えるようになる」、「マナーを守った行動をする」などの答えは出るが、「他人と自分とを比較して悩む」、「自分の考えとは違う行動をとってしまう」等、心の葛藤に関わる答えは出にくいと考える。

期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）

☆答えに含まれてほしい要素

- （1）知的機能、情意機能、社会性が生活経験や学習を通して発達していくこと。
- （2）知的機能、情意機能、社会性が発達することで、思春期には他人と自分とを比較したり、他人から見た自分の姿を強く意識したりするようになること。
- （3）多様な生き方や考え方に触れ、悩んだり試行錯誤したりすることで自分なりの考え方や行動の仕方がつくられていき、自己形成がなされていくこと。

各エキスパート<対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください>

【エキスパートA】知的機能の発達

- 言葉を使う，理解する，記憶する，判断する，推理するなどの力を知的機能という。
- 幼い子どもの知的機能は，家族など身近な人との関わりの中で発達する。
- 年齢とともに，知的機能を発達させる生活経験や学習の機会は広がる。

【エキスパートB】情意機能

- 感情（うれしい，悲しい，怒りを感じるなどの気持ち）と意志（目的のために行動しようとする気持ち）を併せて，情意機能という。
- 情意機能は，いろいろな生活経験や学習により発達する。
- 情意機能が発達することにより，同時に2つの感情が起こったり，他人の気持ちを想像して共感できるようになったりする。

【エキスパートC】社会性

- 社会生活を送るために必要な態度や行動の仕方，考え方のことを社会性という。
- 思春期には，生活の場が広がり，人と接する機会が増えるので，社会性が大きく発達する。
- 社会性の発達とともに，自立しようとする傾向が強くなる一方，自信がないなどの矛盾した気持ちも生まれ，気持ちが揺れ動くことも多くなる。

ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

本時の学習の終末段階では，人権教育の視点から，この授業で学んだ知識を周囲との関わり方に活用することが他者理解やいじめの防止につながる，ということを理解させたい。
また，次時の学習内容は「心と体の関わり」である。この学習を通して，心身相関（精神と身体には密接な関係があり，互いに様々な影響を与え合っていること）について，これまでの生活経験をもとに学習を進め，理解を深めさせていく。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	<ul style="list-style-type: none"> ○体の発育・発達 ○呼吸器・循環器の発育・発達 ○生殖機能の成熟 ○異性の尊重と性情報への対処 	<ul style="list-style-type: none"> ○呼吸器系，循環器系などの機能が急速に発育・発達する時期があること，また，その時期や程度には個人差があることを理解する。 ○思春期には生殖機能が発達し，妊娠が可能となることを理解する。 ○性に関する適切な態度や行動の選択ができるようになる。
前時	<ul style="list-style-type: none"> ○知的機能，情意機能，社会性の発達 	<ul style="list-style-type: none"> ○心は，知的機能，情意機能，社会性等の総体として捉えられ，それらは生活経験や学習などの影響を受けながら，脳の発達とともに発達することを理解する。

本時	○自己形成	○思春期になると、自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになったりし、次第に自己の形成がなされることを理解する。
次時	○心と体の関わり	○精神と身体には密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていることを理解する。
この後	○欲求と欲求不満 ○ストレスへの対処と心の健康	○心の健康を保つには、適切な生活習慣を身につけるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であることを理解する。

上記の一連の学習で目指すゴール

心身の機能の発達と心の健康について、習得した知識をもとに自己の課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現し、自己の生き方につなげることができる。

グループの人数や組み方

【エキスパート活動A「知的機能」】	3人×1グループ、2人×1グループ
【エキスパート活動B「情意機能」】	3人×1グループ、2人×1グループ
【エキスパート活動C「社会性」】	3人×1グループ、2人×1グループ
【ジグソー活動、クロストーク】	3人×5グループ

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	1 本時の学習課題を確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 思春期に心（知的機能，情意機能，社会性）が発達することで，私たちはどのような考えをもったり行動をしたりするようになるだろう。 </div>	
15分	2 シグソー活動 ○シグソーグループで協力して「心の発達モデル図」を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の発達モデル図」の作成方法を全体で確認した上で次の活動に取り組みさせる。
15分	3 クロストーク ○思春期における，知的機能，情意機能，社会性の発達とともに芽生える考えや行動について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート活動の内容を伝え合い，知的機能，情意機能，社会性の発達とともに芽生える考えや行動について考え，ワークシートに記述させる。 ・心の発達の時期や程度には個人差があること，今後さらに多様な他者と生活を送っていくことを踏まえた上で考えさせる。
15分	3 クロストーク ○思春期における，知的機能，情意機能，社会性の発達とともに芽生える考えや行動について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで作成したモデル図を比較，検討させる。 ・心の発達を通して芽生える考えや行動について，以下の2点を捉えさせる。 <ol style="list-style-type: none"> ①他人と自分とを比較したり，他人から見た自分の姿を強く意識したりすること。 ②多様な生き方や考え方に触れ，悩んだり試行錯誤したりすること。 ・以上のような過程を通して「自己形成（自分なりの考え方や行動の仕方がつくられていくこと）」がなされていくことを理解させる。
15分	4 まとめ	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 知的機能，情意機能，社会性が大きく発達する思春期には，多様な生き方に触れ，悩んだり試行錯誤したりしながら自分なりの考え方や行動の仕方がつくられていく。これを自己形成という。 </div>	
	○自己形成がなされていく過程を文章で記述する。 ○この学習で学んだことを自己の生き方とつなげて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をもとに個人思考させ，ノートに記述させる。 ・本時の授業を通して考えたことを交流する中で，以下の2点をおさえる。 <ol style="list-style-type: none"> ①自己形成を通して人生で大切にしたいことや人生の目標にしたいことがはっきりとしてきて，心が豊かになること。 ②思春期における心の発達の仕方について理解することが，他者理解やいじめの防止にもつながること。（人権教育の視点）